

今回の特集では、近年、少子高齢化・過疎化が進んでいるなか、地域の子どもから高齢者まで幅広い世代が交流し、平安時代より続く祭りを傳承されている“うたの秋祭り”を紹介します。



うたの秋祭り

～伝統ある祭りを後世に～

～ お渡り ～

総勢 67 名の行列が続きます

先供 (子ども)

傘・弓・薙刀・
やり
槍など

後供 (大人)

おてふり
手振
はさみばこ
挟箱
やりふり
槍振

太鼓

花籠
ほこ
鉦

獅子頭
きんべい
金幣・白幣

さかき
櫛
さいせんばこ
賽銭箱

宝箱
ほうれんみこし
鳳輦神輿

御神刀
しんかん
神官

役員 など



手振



挟箱



槍振

～ 1 日の流れ ～

- 7:00 各地域の太鼓台が宇太水分神社に向け出発
- 8:00 惣社水分神社で神事
- 8:30 お渡り行列が拍子木に合わせて出発 (途中 10 か所で神事)
- 11:30 6 基の太鼓台が松井地区に集結 (町を練り歩き)
- 11:30 東郷地域の勝林寺前で速秋津彦命の使者からお化粧品の贈り物を渡す神事
- 12:30 太鼓台が地蔵の辻交差点を通過
- 13:00 お渡りが地蔵の辻交差点を通過
- 13:00 太鼓台が宇太水分神社へ
- 14:00 お渡り行列が宇太水分神社へ到着 (芳野太鼓台が先導) 速秋津彦命と速秋津姫命が 1 年に一度お会いになる神事
- 14:40 芳野太鼓台が露払いとしてお渡り行列が惣社水分神社へ
- 15:00 宇太水分神社で太鼓台が練り合い
- 18:00
- ～ 19:00 太鼓台が各地域に到着

※多少時間の変動があります

平安時代より続くこのお祭りは、年に一度、宇太水分神社の男神である速秋津彦命 (はやあきつひこのみこと) に逢うため、惣社水分神社の女神である速秋津姫命 (はやあきつひめのみこと) が、神輿に乗り、毛槍・花籠・神輿太鼓などを従えて、片道 6 km の道のりをやってきます。これを「お渡り」といい、全国でも珍しいロマンチックな祭礼です。

また、この神輿をお迎えるため、重さ 1 トンを超える太鼓台を百数十人が担ぎ、菟田野各地域から 6 基が境内に練り込みます。神の使いとして、綺麗なお化粧をした乗児が叩く太鼓の音と、「チョーサヤ」と息の合った掛け声とともに、境内での練り回しや、太鼓台の差し上げなどの勇壮な姿は迫力満点です。

1000 年以上続く、
優美な神輿渡御祭と太鼓台

みこしとぎよさい

UDANO Mikumari jinja

宇太水分神社

菟田野古市場 245

国宝に指定されている宇太水分神社での秋祭り

毎年10月第3日曜日に行われる“うたの秋祭り”以前は10月21日に行われていました。今年は偶然にも10月21日に開催します。

起源は定かではありませんが、水と五穀豊穡を感謝し、また住民の安定・安全を願い、日本の歴史と共に続いてきた“うたの秋祭り”です。

当日は、神職とお供の者が、東郷地域の勝林寺^{しょうりんじ}前まで女神である速秋津姫命をお迎えにあがり、男神である速秋津彦命^{ひきみ}から託された、秘撰（化粧品と粟）を渡す神事を執り行います。（近くの水銀鉱で採れた貴重な水銀を原料としたお化粧品を女神にプレゼントしたという伝説も残っています）その後、宇太水分神社では太鼓台やお渡りが入り、神事を執り行います。

1000年以上変わらない秋祭りを、お渡しや太鼓台と共に、いつまでも盛大に続けていきたいです。

2020年に本殿創建700年を迎えます。それを記念し、式典および記念行事を来年5月5日に開催します。



SOUSYA Mikumari jinja

惣社水分神社

菟田野上芳野 698



歴史を感じるお渡し

醍醐天皇の時代、昌泰元年（898）から始まった由緒ある秋祭り「神輿渡御祭」。

地元の約100戸の氏子で作る、伝承部会（伝承的なことを後世に伝えたいと思い設立）が中心となり、お渡しには67人が参加します。しかし、過疎化のため、後継者が不足し、高齢化しているのが課題です。

当日は、惣社水分神社から出発する鳳輦神輿^{ほうれんみこし}を中心に、宇太水分神社まで、それぞれの衣装をつけた行列が練り歩きます。

お渡りの途中で披露される「槍振」の毛槍は3mもあり、先頭をきる「手振」や先祓いをする「挟箱」と共に、15人が息を合わせ進む姿は歴史を感じさせます。

惣社水分神社の宝物である、鳳輦神輿は、屋根の上に鳳凰の飾りがついており、南北朝時代の作とされ、国の重要文化財に指定されています。平成元年の「ふるさと創生事業」として一億円を受けた際に、鳳輦神輿などのレプリカを作り、お渡りが復活しました。

Iwasaki taikodai

岩崎太鼓台 保存会



★五感で歴史を感じて

明治7年に岩崎の氏神様として八坂神社が創建され、その後宇太水分神社のお祭りに参加するようになりました。昔は、宵宮に地域内を運行していました。

★メンバーは？

担ぎ手…150人 乗児…4～6人 その他

★アピールポイントは？

古市場・松井・岩崎の3基が宇太水分神社の境内で練り歩くと、とても勇壮で自然に観客から拍手が沸き上がるほど感動します。ぜひその場で菟田野の歴史を感じてほしいです。

★団体としての想いは？

地域の高齢化や、若者の地元離れが進む中、1000年以上続く「うたの秋祭り」には多くの方が参加します。年に一度、この日を心待ちにし、乗児・担ぎ手・大人・子どもも力を合わせ地域がひとつになる特別な1日です。

★太鼓台や法被の特徴は？

太鼓台…重量は約2トン。屋根の下には八坂神社の提灯や木彫刻が施されています。その下に飾り幕が張られ、幕には立体的な刺繍が施され勇壮さを増します。

法被…色は黒色で、「八坂神社」「岩崎太鼓台」の文字。背中には「八坂神社を敬う」という意味の「敬」の文字が染め抜きされています。首には黄色のタオルをかけています。



Furuichiba taikodai

古市場太鼓台 運行保存会



★「宮本」としての太鼓台

うたの秋祭りを主催する宇太水分神社のお膝元で、「宮本」としての位置づけから考えると、6基の太鼓台で最古ではないかと思われます。

★メンバーは？

担ぎ手…120人 乗児…4人 その他…20人

★アピールポイントは？

宇太水分神社の氏子が運営するため、「宮本」太鼓台として、先導役を務めます。他の太鼓台をお迎えに行き、先導して宮入します。また、乗児の太鼓は地元の和太鼓メンバーが指導するので、リズム感の良い太鼓の音が自慢です。

★団体としての想いは？

20年ほど前は、古市場敬神青年会(30歳までの氏子)が夏の盆踊りと、秋祭りの太鼓台運営を担ってきました。そのメンバーも年齢的に太鼓台の担ぎ出しに参加できなくなってきた現在、この誇りに満ちた行事をいかにして後世に引き継いでいくか、英知が試されています。

★太鼓台や法被の特徴は？

太鼓台…重量1トンを超えていると思われます。棟には開口の阿形と口を結んだ吽形の龍と、屋根の四方には唐獅子の彫刻が施されています。

法被…色は黒色で、古市場の「古」を角文字にして、腰柄にあしらひ、背中に「宮本」の文字が入っています。



各地域の太鼓台の代表の方にインタビューさせていただきました。



Ukashi taikodai

宇賀志太鼓台 保存会



★昭和 44 年に保存会設立 復活“50 周年”

復活 50 年を迎えた記念事業として、1 月に奈良市平城宮跡内で開催された「なら大立山まつり」において太鼓台の担ぎ出しを行いました。

★メンバーは？

担ぎ手…100 人 乗児…6 人 その他…30 人

★アピールポイントは？

提灯や刺繍の入った幕等の装飾を施し、重量約 2 トンの太鼓台を、18 歳～70 歳までの総勢 100 人が、乗児の掛け声とともに宇賀神社から宇太水分神社までの道中を練り歩く姿は必見です。他の太鼓台に負けないよう、担ぎ出しを行います。

★団体としての想いは？

過疎化、少子高齢化が進行する地域ですが、50 年間一度も途絶えることなく運営を行ってきました。これからも世代間交流の場を確保し、先輩たちが受け継いでこられた伝統・郷土愛の精神・団結心を継承し、いつまでも続けていけるよう地域活性化を図っていききたいです。

★太鼓台や法被の特徴は？

太鼓台…社寺等の建築で使用される櫓で作られ、装飾は龍の彫刻が施されています。屋根の内部は、木材をパズルのように組み合わせ、隙間なく造られ、外部は社寺等の屋根に見立てた作りになっています。

法被…紺色の下地に背中には「宇賀志」の白抜き文字。色章として、膝下に黄色の布を巻きます。



Matsui taikodai

松井太鼓台 運行保存会



★今年“復活 35 周年”

太鼓台自体の建立は江戸時代ともいわれますが、伊勢湾台風（昭和 34 年）による破損のため担ぎ出しを休止しました。昭和 58 年に地元有志を中心とした寄附金により修復し、昭和 59 年より復活させ、今年 35 周年の節目を迎えます。

★メンバーは？

担ぎ手…130 人 乗児…4 人
女性サポーター…30 人

★アピールポイントは？

復活 35 周年として、会員が一丸となり伝統文化をしっかりと継承していくため“進化と継承”を合言葉に活動を進めています。また太鼓台の親棒の新調と飾り金具の装着を計画しています。

★団体としての想いは？

少子高齢化により、毎年担ぎ手の招集と乗児の選出には苦労しますが、「奈良の三大祭」のひとつに数えられる“うたの秋祭り”での太鼓台担ぎ出しという伝統を何としても守り続けたいです。

★太鼓台や法被の特徴は？

太鼓台…県内特有の「大和型太鼓台」で、入母屋造り^{いりもや}と唐破風^{からばふ}が組み合わされた屋根。棟には龍の彫刻、屋根下方には枅組と装飾彫刻が施されています。

法被…「松井」という地名に由来し、家紋は菱若^{ひしか}で松の葉が形どられています。色は松葉にちなんで、濃い緑色としています。



皆さんの熱い思いを聞かせていただき、ありがとうございました。



Houno taikodai

芳野太鼓台 運行保存会



★ 100 年以上続く伝統

明治時代後半に大西（現在の桜井市大西）より太鼓台を購入し、100 年以上前から運行されていたといわれています。（但し、戦争中、天災等には運行中止）

★メンバーは？

担ぎ手…80～100 人 乗児…4～6 人
その他サポーター等…20 人

★アピールポイントは？

6 基ある太鼓台の中で一番大きく、^{やぐら}檜、屋根の彫刻や龍など豪華な造りとなっています。宇太水分神社に入る前に、両サイドを家屋に囲まれた細い道を一度も下すことなく一気に「一の鳥居」までさがる姿は勇壮です。夜は、太鼓台の提灯に火が入り、松明も灯され、太鼓台が進むときに上下左右に揺れる提灯の灯が幻想的でとてもきれいです。

★団体としての想いは？

担ぎ手、乗児ともに少なくなってきたので、できるだけ長くこの太鼓台を残していけるように知恵を出しながら仲間とがんばっていきます。

★太鼓台や法被の特徴は？

太鼓台…神輿の露払いをする役目の唯一の太鼓台。太鼓の音は“トトン・トン”の繰り返しです。掛け声は“チョーサヤ”。重量は約 2 トンです。

法被…^{ほうすい}黒色の下地に帯以下に白色の格子模様。背中に「芳水」の白抜き文字。会長は会長用の法被を着用。以前は大島紬を着用していました。



Sakura taikodai

佐倉太鼓台 運行保存会



★まつりを通じて、故郷の秋を満喫して

普段地域外で生活している人も、秋祭りには必ず帰郷し、故郷の秋を満喫しているようです。

★メンバーは？

担ぎ手…80 人 乗児…4 人 その他…20 人

★アピールポイントは？

乗児は昔から小学生の男の子と決まっていたのですが、平成 6 年に菟田野地域では最初に、女の子が乗児として参加するようになりました。最近では、「佐倉」に縁のある地域外の子どもさんも乗児として参加してくれています。

★団体としての想いは？

秋祭り当日は、担ぎ手の半分位が地域外から参加してくれています。こうした人たちと一日ふれ合うことによって、人と人との繋がりが広がり、地域の活性化になればと思います。

★太鼓台や法被の特徴は？

太鼓台…比較的小型ではありますが、約 1 トン。総檜造りで彫刻が施され、龍の刺繍が入った飾り幕が張られています。

法被…平成に入ってから新調しました。白肌着の上に紺色の法被、白色の地下足袋。氏神である「桜実神社」を意識したもので、背中には大きな桜の花に「佐倉」と白抜き文字。色はピンク色。桜の花や花びらを散らしています。足元のリボンやタオルもピンク色に統一しています。



Active children

活躍する子どもたち

太鼓台の乗児

各太鼓台には4～6人が乗り、一日中担ぎ手の掛け声とともに太鼓をたたいてくれる乗児。

神の子として、朝早くからお化粧、着付けを行い、大役を務めてくれます。

この日は、地面に降りることができないので、肩車をしてもらって移動します。

ほお紅や、口紅をさす。

太鼓台に乗るための独特な着付け方。タスキを結び、鉢巻を締めて出来上がり。

もみあげをつくり、目元にアイシャドウを付け、きりりとした目に仕上げる。

※お化粧や着付けは地域によって少し異なります。



子ども神輿

秋祭りを盛り上げてくれるのは、子ども会の子どもたち。現在、祭り当日に「子ども神輿」を運行している地域は古市場・岩崎・松井の3地域。

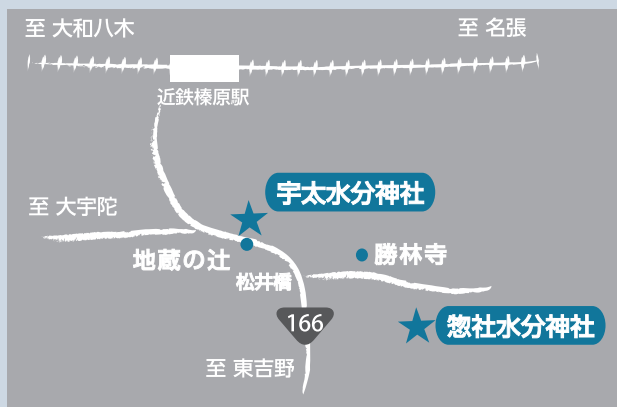
小さい頃から秋祭りに参加しています。

近い将来、太鼓台の乗児や担ぎ手として、秋祭りに参加することを楽しみにしているのではないのでしょうか。

このように“うたの秋祭り”は子どもから大人まで、地域全体で盛り上げ、守っている伝統行事です。



今年の“うたの秋祭り”は 10月21日(日)



問 宇太水分神社 (☎ 84・2613)・宇陀市観光協会【商工観光課内】(☎ 82・2457 / IP ☎ 88・9081)

今回、特集の写真を提供いただきました

中川 寿士さん(菟田野古市場)

子どものころは子ども会として、また太鼓台の乗児として、大人になってからは担ぎ手として秋祭りに参加していました。40歳頃からは、趣味だったビデオや写真を撮り始め、最近は各地域から撮ってほしいと頼まれることも…。午後からの躍動感あふれる各太鼓台の練り合いのシーンは担ぎ手の皆さんも力が入り、カメラマンとしても興奮します!!

初めは1人で撮っていましたが、いろんな場面を撮りたいので、協力者を募り、10人ぐらいで撮るときもあるんです。それを編集し、DVDにしたり、インターネットで情報発信しています。映像や写真を見て、この町に来てくれたら嬉しいし、この町を知ってほしいです。



趣味が地域のためになれば嬉しいです!